

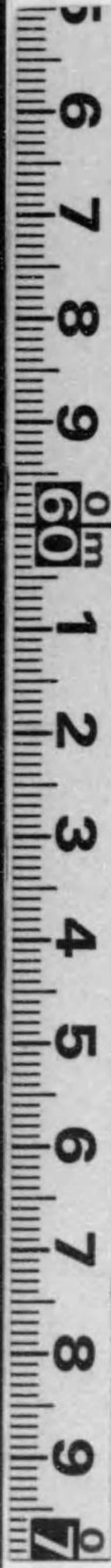
327

9861

広島県産業概覧

大7

国立国会図書館



始



27455

大正七年十月刊行

廣島縣產業概覽

廣島縣內務部

327-986



目次

一、位	置	△九
二、地勢及土質	△六	
三、土地利用ノ狀況	△一	
四、産業ノ概況	二〇	
五、農事	一八	
六、畜産	一五	
七、蠶糸	一四	
八、林業	一三	
九、水産	一二	
十、工業	一一	
十一、商業	一〇	
十二、産業組合	〇九	
十三、時局ノ本縣産業ニ及ボセル影響	〇八	
十四、生産増加計劃一覽	〇七	
十五、勸業機關	〇六	
附錄	〇五	
大正七年度勸業費一覽	〇四	

大正
7. 10. 23
内交

廣島縣產業概覽

一、位 置

安藝備後兩國ヲ管スル我廣島縣ハ北緯三十四度二分ヨリ三十五度六分ニ至リ西經百三十二度四分ニ起
リ百三十三度二十七分ニ終ル東西凡三十三里南北凡二十九里ニシテ面積五百四十一方里ニ及ヘリ安藝
國ハ二市七郡ヨリ成リ備後國ハ二市九郡ヨリ成ル其ノ疆域東ハ岡山縣ノ備中西ハ山口縣ノ周防北ハ鳥
取縣ノ伯耆及島根縣ノ出雲石見諸國ニ接シ南ハ海ヲ隔テ、愛媛縣ノ伊豫ト相對ス

二、地勢及土質

本縣ハ一般ニ山嶽ニ富ミ平地ニ乏シク林地ノ面積ハ實ニ全縣面積ノ約百分ノ八十五ニ達ス殊ニ北部一
帶ノ地ハ隆起シテ山陽山陰兩道ノ分水嶺ヲナシ其ノ支脈蜿蜒トシテ備中備後安藝周防各國境ヲ南走シ
幾多ノ峰巒ヲ重疊起伏セシメ終ニ瀬戸内海ニ到テ盡キ更ニ無數ノ群島ヲ星羅棋布シテ伊豫周防ノ諸島
ト相交錯ス山嶽ハ特ニ峻嶺ト稱スヘキモノナキモ野路、菊尾、大都智、鷹ノ巢、吳婆々宇、十方及冠
等ノ諸山ハ其ノ左ナルモノナリ河川ハ多ク源ヲ北方ニ發シ南流シテ瀬戸内海ニ入ル太田川、蘆田川、
黒瀬川ハ其ノ大ナルモノニシテ小瀬川、沼田川、東城川之ニ亞ク獨リ可愛川ハ北流シテ江川ニ合シ日
本海ニ注ク島嶼ノ重ナルモノハ能美島、江田島、大崎島、嚴島、蒲刈島、倉橋島、因島、生口島、向
島等ナリ地勢山地ニ富メルヲ以テ平地ハ河川ノ流域及沿海地方ニ於テ僅ニ之ヲ見ルノミ
地質ハ花崗岩地最モ多ク石英斑岩地之ニ亞キ秩父古生層ノ如キハ備後ノ東北部及安藝ノ西端ニ於テ稍
廣瀾ノ地盤ヲ構成セルニ過キス其ノ他ハ玄武岩第三紀層第四紀層ト共ニ花崗岩若ハ石英斑岩地帶内ニ

今在リ

介在ス

三、土地利用ノ狀況

大正六年ノ統計ニ依レハ本縣ニ於ケル土地利用ノ概況ハ左ノ如シ

一 官 有 地

地目	別	段	別
田	七〇、八、六		九、七
宅地	七〇、八、六		九、七
社寺	九、九、三		
墳墓	二、六、一		
雜種	三、八、四、六、八		
計	四〇、三、三、一		

二 民 有 地

地目	別	段	別
田	五、八、七、〇、八		三、一、七、一
宅地	七、九、五、三		五、六、〇
山林	四、三、八、八、六		二、六、八、二
池沼	四、六、三		三、八、九、六
計	五、四、六、五、一、九		

四、産業ノ概況

大正四年縣下ノ總生産額ハ一億六千七百九十七萬三千圓ニシテ一方里ニ對スル生産力ハ三十一萬四千八百八十六圓現住戸數一戸ニ對スル生産力ハ五百十四圓現住人口一人ニ對スル生産力ハ九十九圓ニ當ル今既往五ヶ年間ニ於ケル生産力増加ノ狀況ヲ見ルニ左ノ如シ

一 生産總額比較表

産業種類	年	大正六年	大正五年	大正四年	大正三年	大正二年
農業		五、五、八、四	三、五、九、四	三、〇、五、〇	三、五、五、五	四、八、〇、四
蠶業		四、二、七、八	三、五、二、〇	一、六、四、三	一、六、九、三	一、一、三、三
畜産		四、〇、七、三	三、三、三、三	二、二、九、七	二、三、九、一	二、四、三、六
工業		九、八、七、〇	五、一、四、五	四、〇、二、三	五、四、七、〇	四、八、七、八
林業		六、五、五、五	三、五、五、六	四、四、八、五	四、六、九、三	五、二、九、三
水産		六、〇、四、五	三、一、七、七	二、五、八、五	四、〇、八、八	五、五、五、一
礦業		一、五、六、六	一、三、三、一	六、六、一	三、〇、九	三、〇、九
計		一、六、七、九、五	一、〇、一、一、四	八、二、四、四	一、〇、四、三、〇	一、一、一、五、九

備考

- 一、大正二年以降全五年迄農業生産力減シタルハ米麥ノ價格低落シタルニ由ル
- 二、蠶業ノ大正五年産額ハ蠶産製煉高ノミヲ掲記ス
- 三、農務統計樣式改正ノ結果大正四年以降工業ニ於テ他府縣ニ本店ヲ有スル綿糸紡織ノ産額ヲ控除シ林業ニ於テ製材ヲ工産物ニ移シタル爲林産額ヨリ控除ス

二 生産増減比較表

(△印ハ減)

産業種類	増減歩合		産業種類	増減歩合	
	大正五年 対大正元年 比	増減歩合		大正五年 対大正元年 比	増減歩合
農業	三、五五	同増	水産	〇、七四	同増
畜産	三、六五	同増	林業	六、四三	同増
蠶業	一、六七	同増	礦業	九、二四	同増
工業	四、〇九	同増	計	六、七三	同増

(三) 一方里及一戸當一人當生産力比較表

年次	一方里ニ對スル生産力		現住戸數一戸ニ對スル生産力		現住人口一人ニ對スル生産力	
	大正二年	大正三年	大正二年	大正三年	大正二年	大正三年
大正二年	二六、九八	二六、九八	三、四一	三、四一	六、七二	六、七二
大正三年	一九、〇七	一九、〇七	三、六二	三、六二	六、〇五	六、〇五
大正四年	一五、三三	一五、三三	三、八六	三、八六	五、一四	五、一四
大正五年	一七、六八	一七、六八	三、七三	三、七三	六、〇三	六、〇三
大正六年	三〇、四六	三〇、四六	三、八一	三、八一	九、〇五	九、〇五

(四) 一方里及一戸當一人當生産比較表

種別	増減歩合		種別	増減歩合	
	大正六年 対大正二年 比	増減歩合		大正六年 対大正二年 比	増減歩合
一方里	九、五四	同	一方里	九、五四	同
一戸當	二、七四	同	一戸當	二、七四	同
一人當	三、三三	同	一人當	三、三三	同

(五) 郡市別生産力比較表

郡市	農業		畜産		工業		水産		林業		礦業		計	現住人口 一人ニ對スル 生産力
	大正六年 対大正二年 比	増減歩合	大正六年 対大正二年 比	増減歩合	大正六年 対大正二年 比	増減歩合	大正六年 対大正二年 比	増減歩合	大正六年 対大正二年 比	増減歩合	大正六年 対大正二年 比	増減歩合		
廣島	一、六一	同増	一、三九	同増	二、六〇	同増	三、七三	同増	二、八八	同増	一、九八	同増	二、八九	一、八七
尾道	一、五〇	同増	六、四三	同増	四、三三	同増	五、四〇	同増	三、八八	同増	三、八八	同増	三、八八	三、八七
福山	二、七五	同増	七、二六	同増	一、四八	同増	三、八〇	同増	二、七三	同増	一、九二	同増	二、九二	二、九二
安藝	三、二九	同増	六、八三	同増	一、四六	同増	二、七五	同増	二、六七	同増	一、九二	同増	二、九二	二、九二
佐伯	三、三三	同増	一、七五	同増	九、四二	同増	三、八四	同増	二、七三	同増	一、九二	同増	二、九二	二、九二
安佐	三、〇八	同増	六、〇三	同増	三、八七	同増	三、八四	同増	二、七三	同増	一、九二	同増	二、九二	二、九二
山縣	二、五九	同増	六、〇〇	同増	七、八三	同増	九、七二	同増	二、七三	同増	一、九二	同増	二、九二	二、九二
高田	二、七三	同増	二、七九	同増	一、〇三	同増	七、五八	同増	二、八〇	同増	一、九二	同増	二、九二	二、九二
賀茂	四、九七	同増	一、八二	同増	一、四七	同増	五、二五	同増	三、八八	同増	一、九二	同増	二、九二	二、九二
豊田	四、八九	同増	一、八三	同増	一、四七	同増	五、二五	同増	三、八八	同増	一、九二	同増	二、九二	二、九二
御調	四、〇五	同増	一、八三	同増	一、四七	同増	五、二五	同増	三、八八	同増	一、九二	同増	二、九二	二、九二
世羅	二、三三	同増	二、三三	同増	六、一三	同増	六、一三	同増	二、七三	同増	一、九二	同増	二、九二	二、九二
沼隈	三、三〇	同増	二、三三	同増	二、三三	同増	六、一三	同増	二、七三	同増	一、九二	同増	二、九二	二、九二
深安	三、七五	同増	七、九八	同増	一、〇三	同増	六、一三	同増	二、七三	同増	一、九二	同増	二、九二	二、九二
蘆品	二、八七	同増	一、四四	同増	八、〇三	同増	二、七三	同増	二、七三	同増	一、九二	同増	二、九二	二、九二
神石	一、五〇	同増	二、九三	同増	八、〇三	同増	二、七三	同増	二、七三	同増	一、九二	同増	二、九二	二、九二
三奴	一、三三	同増	二、九三	同増	四、七八	同増	二、七三	同増	二、七三	同増	一、九二	同増	二、九二	二、九二
双甲	二、七九	同増	二、六五	同増	一、四四	同増	二、七三	同増	二、七三	同増	一、九二	同増	二、九二	二、九二

比	三、六三、二四三	四〇八、五五九	二、三三、四三三	一、八八、八〇八	七、二二八	一、〇四七、八四四	一、七五、八八八	七、三三、一八三	一〇五、九
合	五、五八、四二九	四、二七、八九五	四、〇三、三〇八	九、八七、〇八四	六、五五、四四六	六、〇四、三九二	一、五八、六六六	一、七五、九三九	九、九、〇五

備考

一、前年ニ比シ生産高六千五百一十萬圓餘ヲ増加セルハ主トシテ時局ノ影響ノ爲各生産物ノ價格騰貴セルト需用激増セルトニ因ル、而シテ其ノ増加ノ主ナルモノハ左ノ如シ

農産ノ増加額千六百六十五萬圓中増加額ノ主ナルモノハ米ノ七百三十八萬圓、麥ノ三百十三萬圓ナリ、畜産ノ増加額七十五萬圓中増加額ノ主ナルモノハ牛出產ノ約三十萬圓、屠殺ノ約二十萬圓ナリ

工業ノ増加額四千四百四十四萬圓中増加額ノ主ナルモノハ造船ノ七百三十萬圓、織物ノ四百六十六萬圓、酒類ノ三百八十四萬圓、針ノ百八十八萬圓、挽材ノ百五十萬圓、打綿ノ百五十萬圓、丸及角材ノ百三十萬圓、蠶絲類ノ百二十三萬圓、西洋紙ノ九十萬圓、染料ノ約八十萬圓、染手拭ノ約七十萬圓、蠟燭ノ六十七萬圓、和紙ノ五十萬圓、漁網地ノ四十萬圓ナリ

水産ノ増加額二百二十萬圓中増加額ノ主ナルモノハ漁獲物ノ百八十八萬圓、水産製造物ノ三十六萬圓、製鹽ノ三十萬圓ナリ

林業ノ増加額二百八十七萬圓中増加額ノ主ナルモノハ用材ノ百二十二萬圓、薪炭材ノ六十三萬圓ナリ

鑛業ノ増加額三十二萬圓中増加額ノ主ナルモノハ鑛物製煉高ノ二十六萬圓ナリ

一、本表ハ大正六年本縣統計書第三編(勸業)ノ材料ヨリ集收セリ

更ニ重要物産ノ現況及其消長ニ梗概ヲ舉クレハ左ノ如シ

種類	大正二年		大正六年		數量増△減	價額増△減
	數量	價額	數量	價額		
米	一、三九、八九六石	二八、九四八、六八四圓	一、五八、〇〇〇石	二八、七五三、二四八圓	一、六一、八三〇石	一、一九、四四三圓
清酒	一、〇〇〇石	七、八三、四三三圓	一、〇〇〇石	一〇、五五、五四七圓	七九、八四〇石	二、七三、六〇四圓
船隻	一、〇〇〇艘	四、二二、七七八圓	一、〇〇〇艘	一〇、四三、二〇五圓	〇艘	六、二〇、四二七圓
金銀製品	七、八、〇〇〇兩	八、七七、九九九圓	八、〇〇〇兩	八、五三、一〇三圓	二兩	七、七七、二五圓
金製品	三、三、二九三貫	五、四、八七八圓	三、三、二九三貫	七、七、七三〇圓	〇貫	九、〇、六〇〇圓
繭	三、三、二九三貫	一、〇四、〇八七〇圓	五、四、一、五五貫	四、〇四、一、五五圓	二、〇七、九六三貫	三、〇〇、七三三圓
漁獲物	二、四、七、七七〇斤	三、七、七、九八〇圓	二、八、五、四〇六斤	二、八、五、四〇六圓	四、〇、六三六斤	五、三、七、六五圓
帆纜	一、五、七、四四貫	六、〇、二、九七七圓	二、五、四、二、〇〇貫	二、七、四、七、四四圓	九、六、五五六貫	二、一、四、一、五三圓
染色	三、九、四、八、六三三貫	一、四、三、七、七三圓	四、一、一、三、三三貫	二、四、六、二、八九圓	一、九、六、七九貫	七、八、五、二七圓
生糸	一、五、七、四四貫	六、〇、二、九七七圓	二、五、四、二、〇〇貫	二、七、四、七、四四圓	九、六、五五六貫	二、一、四、一、五三圓
桑葉	一、五、七、四四貫	一、四、三、七、七三圓	三、五、四、三、三三貫	二、七、四、七、四四圓	一、九、六、七九貫	七、八、五、二七圓
用材	七、五、〇、七、七三斤	八、七、八、一、四四圓	八、八、六、一、五八斤	二、三、五、四、四七圓	一、三、五、三、七五斤	一、四、六、〇、二、九三圓
屠肉	三、五、四、三、七三斤	一、九、三、三、四三二圓	七、六、三、九、四四斤	二、三、〇、八、九〇圓	四、〇、九、六一斤	八、六、八、三、七三圓
甘藷	一、七、四、四、六石	一、五、八、一、三、七七圓	三、九、一、九、七五石	二、〇、七、二、四、六六圓	二、二、〇、七、二、四、六六石	一、五、九、八、一、五五圓
醬油	一、七、四、四、六石	一、五、八、一、三、七七圓	二、六、五、八、〇石	二、〇、三、〇、三三圓	九、一、一、四二石	四、〇、〇、六、六六圓

刻煙草	丸及角材	西洋紙	罐詰	木履	薪炭	和紙	果實	製煉	菓糖	水產製造物	漁網地物	菓製	蘭製	羅製	味噌	英產及花	麻製	筆
一五、七四〇	三五、八八〇	八、九七五	一七、〇六三	四九、九二五	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三
六、三九七	一、〇四六	八〇、一三五	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三
三三七、六九〇	五五、〇四七	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三
二、〇二一	一、九四六	一、七一九	一、七六二	一、七六二	一、七六二	一、七六二	一、七六二	一、七六二	一、七六二	一、七六二	一、七六二	一、七六二	一、七六二	一、七六二	一、七六二	一、七六二	一、七六二	一、七六二
三三、八六三	三二、二四〇	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三
一、四八八	八七、六九九	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三

備考
 桑葉ハ大正五年ヨリ黒色硫化染料ハ大正四年ヨリ何レモ統計ニ計上シタルヲ以テ大正二年統計ハ
 空欄トス又數量ノ空欄トナレハ數量算出ノ基礎區々ニシテ之ヲ合計シ難キニ由ル

五、農 事

農業ハ本縣ノ主要産業ニシテ大正六年末縣下農家總戸數ハ二十万一千八百九十九戸ヲ算シ同年末縣下
 總戸數三十二万六千九百十五戸ニ對シ六割一分七厘ヲ占ム而シテ田七万五千八百七十町八反歩畑三万
 六千八百八十七町一反歩合計十一万二千五百七十七町九反歩ニシテ大正六年ノ農産物産額ハ五千五百八十八万
 四千二百九十八圓ニ達シ其ノ中米百五十万六千八百八十石其ノ價額二千八百七十五万三千二百四十八圓麥
 八十万五千九百六十石其ノ價額七百七十八万七千三百九圓ヲ主トシ食用作物七百七十三万六千八百十
 圓特用作物二百八十二万四千五百十圓果實百四十二万九千七百二十七圓ヲ算ス之ニ農家ノ副業タル蠶
 業ノ四百廿七万八千九百七十五圓畜産ノ四百七万三千三百四十八圓ヲ加フレハ五千九百九十三万六千
 百二十一圓ニ達シ之ヲ農家一戸當收入ニ見積ルトキハ二百九十六圓ニ當ル然レトモ之ヲ同年縣下ノ現
 住戸數一戸當收入五百十四圓ニ對スレハ農家ノ收入寡少ナルコト實ニ二百十八圓ヲ算スヘシ近時農家
 經濟ノ發達ヲ圖ランカ爲主要産物タル米麥ノ增收ヲ企劃獎勵シ特用作物ニ在リテハ蘭、大麻、除虫菊、
 食用作物ニ在リテハ蔬菜、甘藷、果實ニ在リテハ柑橘、柿等ノ品質改良並産額増加ヲ促シ又晩近副業逐
 次發達シテ農家經濟ノ伸暢ヲ裨補シツ、アリ今縣ニ於テ施設セル事業ノ重ナルモノヲ擧レハ左ノ如シ

(一) 縣農業技手郡市駐在

- (二) 縣立農事試驗場及分場
- (三) 耕地整理
- (四) 穀物検査 検査技手町村駐在検査ノ傍普通農事指導獎勵)
- (五) 病虫害豫防
- (六) 縣農會費補助(縣費指定補助郡市農會專任幹事給)
- (七) 農家副業教師派遣

六、畜 産

本縣ノ風土ハ畜産業ノ經營ニ適シ一ケ年ノ産額四百七万三千圓ヲ超ユ斯業ハ概ネ農家ノ副業トシテ發達シタルモノニシテ就中畜牛ノ如キハ農家二十万一千八百九十九戸ニ對シ九万五千三百八十頭ノ現在數ナルヲ以テ二戸ニ就キ一頭弱ノ割合ヲ以テ飼養セルヲ見ル之ニ亞クハ馬一万頭、豚千二百七十七頭山羊五百十九頭ニシテ家禽ハ一消一長常ナラスト雖四十五万五千二百九十三羽ノ現在數ヲ有ス又大正六年家畜生産ノ狀況ヲ見ルニ馬生産五百四十二頭ニシテ遞減ノ傾向ヲ呈シ牛生産一万八千三百九十三頭、豚生産千五十五頭、山羊生産四百三頭ニシテ何レモ前年ニ比シ増殖シ家禽亦著シク増加シツ、アリ今縣ニ於テ斯業ノ爲メニ施設シツ、アル重ナル事業左ノ如シ

- (一) 技術員設置
- (二) 縣立種畜場
- (三) 種牡牛馬下付

- (四) 國有種牡馬種付費補助
- (五) 乳油製造所補助
- (六) 畜牛結核病豫防
- (七) 牝馬購入補助
- (八) 産牛馬組合聯合會補助

七、蠶 糸 業

本縣ニ於ケル蠶糸業ハ之ヲ先進地ニ比スレハ頗ル遜色アリト雖逐年農家副業トシテ順境ナル發達ヲ逐ケ大正六年ニ於テハ桑園反別三千六百二十八町步、養蠶戸數一万九千五百六十一戸、蠶種掃立枚數四万一千三百七十枚收繭額五万四千四百二十五石、蠶種製造高ハ特別蠶種六百四十四万三千九百五十三蛾普通蠶種千五百十枚生糸製造額三万五千四百二十二貫ニシテ桑園一反歩ニ對スル收繭平均一石五斗掃立枚數一枚ニ對スル收繭平均一石三斗一升四合養蠶戸數一戸ニ對スル收繭平均二石七斗八升二合ナリ而シテ收繭額ヲ大正二年ニ比スレハ三万七千九百九十六石ノ激增ニシテ喜フヘキ現象ナレトモ試ミニ畑總反別ニ對スル桑園反別ノ歩合ヲ看ルニ僅ニ一割ニシテ農家戸數ニ對スル養蠶戸數ハ九分七厘ニ過キス農家戸數耕地面積及氣候風土ノ關係ヨリ考量セハ蓋シ將來尙大ニ發展ノ餘地アルヘキナリ之カ振興ノ方法トシテ現ニ縣ノ施設獎勵シツ、アル重ナル事項左ノ如シ

- (一) 技術員設置
- (二) 縣農業技手郡市駐在

- (三) 原蠶種製造所
- (四) 農事講習所
- (五) 蠶業取締所
- (六) 桑苗圃費補助
- (七) 養蠶組合費補助

(附記) 原蠶種製造所及農事講習所支所比婆郡庄原町ニ設置決定シ目下事業着手中

八、林業

本縣ハ山地ニ富ミ林野面積ノ廣大ナル本邦稀有ノ一ニ屬シ臺帳面積約四十七万三千八百步其ノ實測推定七十二万四千町步ニ及ヒ全管總地積ノ約八割五分ヲ掩有シ田地面積ノ九倍半畑地面積ノ十九倍餘ニ該當ス而シテ本縣林野面積ノ八割即チ約五十七万九千町步ハ樹林地ニ屬スト雖殘餘ノ二割即チ約十四万五千町步ハ無立木地ニ屬シ此ノ内裸禿崩懷見込地約七千町步ヲ存ス次ニ林野施業利用ノ狀勢ヲ見ルニ本縣民有林ノ多クハ今猶依然舊態ヲ墨守シ殊ニ公有林野ノ如キハ積年濫伐ノ結果地力ノ衰退セルモノノ勢ラス殊ニ入會ノ慣行ヲ有スル地方ニ至テハ荒廢甚シカリシモ漸次發達シ爲ニ林相漸ヲ以テ繁茂シツ、アリ

大正六年ノ林產物ハ生産額五百七十八万六千四百餘圓ニシテ其ノ主ナルモノハ用材、薪炭材、木炭等ナリトス歐洲戰亂以來著シク生産額ヲ増加セルハ木材ヲ始メ阿部檜、松脂等ナリ同年ニ於ケル一町步當林產生產額ハ八圓〇四錢(國有林ヲ除ク)ニ相當ス今縣ニ於テ施設シツ、アル事業ノ主ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

- (一) 技術員設置
- (二) 公有林野造林獎勵
- (三) 森林組合地區未立木地造林獎勵
- (四) 竹林改良増殖獎勵
- (五) 樹苗養成獎勵
- (六) 荒廢地復舊費補助
- (七) 部落有林野統一獎勵
- (八) 林野整理
- (九) 地方森林會
- (十) 縣有模範林造成
- (十一) 林地副業獎勵
- (十二) 廣島縣山林會補助

九、水産

本縣沿海ハ四市七郡ニ涉リ海岸線延長二百四十六里漁民戸數一万四千二百三十三戸從業者數二万九千五百十人ニシテ漁獲高二百九十九万八千五百三十五圓水産製造高(鹽ヲ除ク)百二十五万五千六百八十八圓水産養殖高四十四万二千七百七十一圓遠洋漁獲高九十二万一千九圓總計五百六十一万四千九百八十三圓ニ達ス即チ漁村一戸生産高三百九十五圓ヲ算シ之ヲ大正二年一戸當ニ比スレハ六十圓ヲ大正四年一戸

當ニ比スレハ百四十二圓ヲ増ス右ノ外水産主要物産タル鹽ノ生産額ハ百卅六万七百四十四圓ニシテ此反別五百六十六町即チ一町當生産ハ二千四百四圓ニ相當由來本縣ノ漁業ハ殆ント集約的經營ノ極ニ達セルヲ以テ此ノ狹隘ナル海面ト漁村密度ノ大ナル本縣水産業ノ施設トシテハ内漁場ノ整理漁船ノ改造製品ノ改良養殖業ノ普及竝ニ漁村ノ改善ヲ期シ外朝鮮海關東洲其ノ他ノ遠洋ニ向ツテ出漁發展ヲ促シツレアリ今左ニ主タル施設ノ概要ヲ記スヘシ

- (一) 技術員設置
- (二) 遠洋出漁獎勵
- (三) 漁船改良獎勵
- (四) 朝鮮移住獎勵
- (五) 朝鮮海通漁組合費補助
- (六) 廣島縣水産會補助

一〇、工業

本縣ノ工業物ハ九千三百八十七萬圓ヲ算シ其ノ製造ノ多クハ家内の手工業ナリシモ軌近時勢ノ進運ニ伴ヒ機械工業漸ヲ以テ發達シ現ニ十人以上ノ職工ヲ有スル工場ハ四百五十六戸ニ上レリ試ミニ縣下ニ於ケル主要工業物ヲ舉クレハ清酒千五十一万五千五百四十七圓織物千四十三万六千二百五圓船舶八百五十三万一千二百圓金屬製品七百六十八万八千七百二十八圓帆布綿二百八十一万五千四百六圓硫化染料二百七十四万七千四百五圓生糸二百七十四万四千五百十二圓疊表二百四十一万六千二百八十九圓醬油二百一十二千三百圓等ニシテ今次歐洲戰亂ノ結果本縣ノ工業ニ及セル影響ヲ見ルニ從來輸出ノ振ハ

サリシ帆布綿生糸縫針西洋紙刷子染料等ハ歐洲ニ於ケル輸出杜絶ノ影響ヲ受ケ頗ル盛況ヲ來シ其ノ生産ニ於テ著シク増加ヲ見ルニ至レリ今縣ニ於テ工業ノ爲メ施設セル主ナル事業ヲ舉クレハ左ノ如シ

- (一) 縣立工業試驗場(染織部、化學部、釀造部、機械部、圖案部)
- (二) 罐詰検査所
- (三) 實業獎勵 (産業ノ實地指導ニ要スル諸費)
- (四) 眞田同業組合補助
- (五) 商工業獎勵 (同業組合指導吏員ノ設置)
- (六) 染織事業費補助(廣幅力織機据付費補助)

一一、商業

本縣ハ海陸ノ交通至便ニシテ縣内ニハ廣島、吳、尾道、福山ノ四市ヲ始メ三次、三原府中其他小市街地多ク軌近工業ノ發達ト交通機關ノ進歩トニ伴ヒ商業取引ノ如キモ亦逐次發展ノ機運ニ向ヒツ、アルモノ、如シ大正六年末ノ現在ニ依レハ商工業各種會社ノ總數四百九十一其ノ資本金總額四千三百八十八万八千五百八十五圓銀行數四十七其ノ資本金千三百六十四万二千三百三十五圓ニ達ス縣下ノ金融狀態ヲ見ルニ大正六年末統計ニ依レハ銀行預金四千七百七十五万三千四百五十五圓郵便貯金千三百五十八万七千二百六十四圓產業組合貯金四百五十六万七千九百四十七圓合計五千九百九十九万五千五百五十六圓ニ上リ銀行貸出金三千八百九十四千三百十圓質屋貸出金百七十一万七千七百四十七圓產業組合貸出金三百二十万九千四百五十二圓合計三千五百八十一万五千五百九圓ヲ算ス今既往五ケ年間ノ概況ヲ舉クレハ左ノ如シ

(一) 會社數及其資本金額表

年次	會社數	資本金總額
大正六年	四二三	三四、六五三、〇九四
大正五年	四四四	三三、八九一、九三〇
大正四年	四四四	三四、七〇〇、八〇四
大正三年	四九九	三三、七〇〇、八〇四
大正二年	四九九	三三、九六八、〇三六
大正一年	四九一	三四、一八、五八九

(二) 銀行數及其資本金表

年次	銀行數	資本金總額
大正六年	五四	一四、七二、三五〇
大正五年	五二	一四、三二、三三五
大正四年	五二	一四、三二、三三五
大正三年	五二	一四、三四六、三三五
大正二年	五二	一四、三二、三三五
大正一年	四七	一三、六四〇、三三五

(三) 各種預金表

年次	銀行預金	郵便貯金	產業組合貯金	合計
大正六年	三、五五四、六三九	五、九〇〇、〇〇〇	一、四八三、六四四	三八、三二二、六三三
大正五年	三〇、四九、三五七	五、四三三、八五三	一、四六九、三四四	三七、三二、五五四

(四) 各種貸出金表

年次	銀行貸出金	質屋貸出金	產業組合貸出金	合計
大正六年	二八、一六〇、九三三	六、六六、三三八	一、六五三、四三三	三五、四九〇、七〇三
大正五年	二九、四八四、七六八	一六、三七、八三三	二、四二八、三九三	四八、三〇〇、九三三
大正四年	四、七五〇、四四五	三、五七、二六四	四、五六、九四七	五九、九五五、五五六

(五) 金利率表

年次	百圓ニ對スル銀行日歩		拾圓ニ對スル質屋月利		百圓ニ對スル產業組合日歩	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低
大正六年	三、七三	三、二五	三、三三	一、四四	三、三三	三、〇〇
大正五年	三、七三	三、二五	三、三三	一、四四	三、三三	三、〇〇
大正四年	三、七三	三、二五	三、三三	一、四四	三、三三	三、〇〇
大正三年	三、七三	三、二五	三、三三	一、四四	三、三三	三、〇〇
大正二年	三、七三	三、二五	三、三三	一、四四	三、三三	三、〇〇
大正一年	三、七三	三、二五	三、三三	一、四四	三、三三	三、〇〇

縣ハ産業組合ノ經營ニ依リ設置シタル農業倉庫ニハ相當補助費ヲ支出ス

一三、時局の本縣産業ニ及ホセル影響

歐洲戰亂以來本縣産業界ニ及ホセル影響ハ之ヲ大別シテ (一)輸出品ノ増進 (二)輸入代用品ノ増進 (三)輸入原料缺乏ニ依ル生産ノ減少ノ三種ニ區別スルヲ得ヘシ而シテ其ノ影響ノ最モ大ナルハ工業ニシテ蠶糸業及普通農事等之ニ亞ク今各種産業ノ狀況ヲ略叙スレハ左ノ如シ

一、工業

(一)帆布 產地尾道市

本縣ニ於ケル帆布ハ主トシテ内地ノ需要ニ供シツ、アリシモ近時製造方法ノ改善ト設備ノ完備トニ伴ヒ米利堅模造品ヲ製織スルニ至リ本邦貿易商人ノ手ヲ經テ歐米諸國へ輸出シツ、アリシカ歐洲戰亂勃發以來特ニ軍需品トシテ使用セラル、結果輸出額ニ激増シ大正二年ニ比シ大正六年ノ産額實ニ百四十四万七千餘圓ノ増加ヲ示シタリ今最近五ヶ年間ノ産額ヲ掲クレハ左表ノ如シ

種別	年次	數量	價額	對大正二年	對大正六年
帆布	大正二年	九、七九九碼	九、七九九圓		
	大正三年	四、六六八碼	四、六六八圓		
	大正四年	三、八七三碼	三、八七三圓		
	大正五年	七九、一四四碼	七九、一四四圓		
	大正六年	三、〇四一碼	三、〇四一圓		
	對大正二年	增	二、三三、八六六圓	增	一、四七、三〇〇圓

(二)針 產地安佐郡三篠町、廣島市

近時製法ノ改善ニヨリ舶來品ヲ凌駕スル優良品ヲ産スルニ至リ殊ニ歐洲戰亂以來交戰國ヨリノ輸

入杜絶シタル結果海外殊ニ支那米國等へ輸出スル額激増スルニ至レリ今最近五ヶ年間ノ生産額ヲ掲クレハ左ノ如シ

種別	年次	數量	價額	對大正二年	對大正六年
針	大正二年	四、六五五、〇〇〇正	九、〇〇〇圓		
	大正三年	五、四四一、〇〇〇正	一〇、一五〇圓		
	大正四年	六、六五五、〇〇〇正	二二、三三六圓		
	大正五年	六、五五〇、〇〇〇正	五、一六六、六方本		
	大正六年	五、八三三、八〇〇正	二、六四四、六三三圓	增	五、一八七、一八九圓
	對大正二年	增	二、五五五、六三三圓	增	二、五五五、六三三圓

(三)玩具 產地佐伯郡廿日市町嚴島町、廣島市

本縣ニ於ケル玩具ノ製造ハ最近ニ起リタル事業ニシテ曾テ計數ノ見ルヘキモノナカリシカ大正二年頃ヨリ漸ク進歩シ偶々時局ニ際シ獨逸ヨリ輸出ノ途杜絶シタル爲茶器、飲食品、人形、動物類等ノ木製玩具貿易商人ノ手ヲ經テ盛ニ米國及印度方面ニ輸出セラル、ニ至リ漸次發展ノ傾向ヲ示シツ、アリシカ米國輸出禁止セラレタルタメ生産額漸次減出シツ、アリ最近五ヶ年間ニ於ケル産額ヲ各年別ニ掲クレハ左表ノ如クニシテ大正二年ニ比シ大正六年ノ産額ハ五万三千五百餘圓ヲ増加セリ

種別	年次	價額	對大正二年	對大正六年
玩具	大正二年	一四、〇八五圓		
	大正三年	二、二二五圓		
	大正四年	三、三三六圓		
	大正五年	三、二二〇圓		
	大正六年	六、七六〇圓	增	五、五五五圓
	對大正二年	增	五、五五五圓	增

(四)萬年ペン 產地吳市

大正元年頃ヨリ製造ヲ創メ其後苦心研究ノ結果漸ク舶來品ニ匹敵スヘキ製品ヲ得ルニ至リ今ヤ舶來品トシテ國內ノ市場ニ販賣セラル、ニ至レリ今最近五ヶ年ニ於ケル生産額ヲ示セハ左ノ如シ

種別	年次	數量	價額
護謄製品 產地廣島市	大正二年	?	?
	大正三年	3,000本	1,000圓
	大正四年	25,000本	11,800圓
	大正五年	25,000本	15,100圓
	大正六年	30,000本	15,000圓
	對大正三年增減	增	29,000本
	對大正六年增減	全	134,000本

(五)護謄製品 產地廣島市

本縣下ニ於ケル護謄製造所三ヶ所アリ歐洲戰亂以來歐洲ヨリ輸入杜絶シタル結果之カ代用品トシテ大正四年甫メテ業ヲ起シ爾來露國支那米國等ニ輸出セラル、ニ至レリ其ノ多クハ貿易商人ノ手ヲ經テ輸出セラレ直輸入ヲ爲スモノハ極メテ少額ナレトモ將來益々發達ノ見込アリ其ノ製品ノ主ナルモノハ自轉車タイヤ靴裏靴踵護謄球雪駄裏等ナリトス創業以來大正五年ニ至ル年産額ヲ掲クレハ左ノ如シ

種別	年次	數量	價額
製紙	大正二年		
	大正三年		
	大正四年	1,900圓	
	大正五年	2,780圓	
	大正六年	3,015圓	
	對大正四年增減		1,115圓
	對大正六年增減		1,335圓

(六)製紙

歐洲戰亂以來西洋紙輸入杜絶ノ結果和紙ヲ代用スルニ至リシト一面西洋紙ノ輸出ヲ見ルニ至リシトニ依リ何レモ其産額増加セリ今最近五ヶ年ニ於ケル生産額ヲ示セハ左ノ如シ

種別	年次	數量	價額
和紙	大正二年	7,680圓	
	大正三年	8,017圓	
	大正四年	9,316圓	
	大正五年	11,715圓	
	大正六年	14,916圓	
	對大正二年增減		7,236圓
	對大正六年增減		7,236圓

西洋紙	價額
大正二年	4,135圓
大正三年	9,910圓
大正四年	33,370圓
大正五年	44,100圓
大正六年	17,915圓
全	1,039,016圓

(七)紡績 產地廣島市福山市佐伯郡能美島

歐洲戰亂以來輸入杜絶ノ結果内地ノ需要増加ト支那地方ヘノ輸出多キニ至リ爲ニ其ノ産額ヲ増加セリ今最近五ヶ年ニ於ケル生産額ヲ示セハ左ノ如シ

種別	年次	數量	價額
紡績	大正二年	3,636貫	9,067.77圓
	大正三年	3,559.90貫	8,891.80圓
	大正四年	3,377.04貫	8,441.56圓
	大正五年	4,053.47貫	10,130.63圓
	大正六年	3,478.16貫	7,477.33圓
	對大正二年增減	減	148.53圓
	對大正六年增減	增	8,370.93圓

(八)麥稈及經木真田麻真田

需用地ニ於ケル嗜好變化シタル爲メ年々輸出額減少ノ趨勢アリシニ加ヘ歐洲戰亂ノ影響ヲ被リ一時輸出杜絶ノ状態ニ陥リ其ノ産額激減シタルモ大正五年以來漸ク挽回ノ傾向ヲ呈スルニ至リシカ如キモ尙不振ノ狀況ナリ今最近五ヶ年ニ於ケル産額ヲ示セハ左ノ如シ

種別	年次	數量	價額
麥稈	大正二年	3,190,556反	1,510,335.84圓
	大正三年	2,583,533反	1,203,405.00圓
	大正四年	1,284,188反	582,912.12圓
	大正五年	2,466,666反	1,226,240.00圓
	大正六年	2,588,783反	1,275,833.00圓
	對大正二年增減	減	286,823.84圓
	對大正六年增減	全	1,440,266.64圓
經木	大正二年	3,795,988反	2,740,368.00圓
	大正三年	2,545,433反	1,840,250.00圓
	大正四年	1,801,512反	1,282,350.00圓
	大正五年	2,600,000反	1,919,975.00圓
	大正六年	2,667,722反	2,000,000.00圓
	對大正二年增減	減	1,055,618.00圓
	對大正六年增減	全	1,440,266.64圓

(九) 鐵 產地比婆郡、山縣郡

時局ノ影響ヲ受ケ海外及國內ニ於ケル需要頓ニ増加シタル結果從來ノ製鐵業者ハ其ノ規模ヲ擴張シ或ハ會社組織等ニ變更シタル爲メ著シク其産額ヲ増加スルニ至レリ今最近五ケ年ニ於ケル生産額ヲ示セハ左ノ如シ

種別	年次	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	對大正二年 大正六年 増減
數量	噸	二二、六六	二五、七八	五七、〇三	八〇、八七	五三、九三	増 三〇、二六
	價額	一四、三〇	四七、〇四	五七、〇三	一〇、七五	三九、九六	全 増 二四、六六

(十) 金屬製煉 種類、銅、亞鉛、產地廣島市、比婆、山縣、豊田郡

從來本縣ニ於ケル製煉業ハ極メテ不振加フルニ時局勃發以來諸金屬ノ輸入杜絶シ價額亦暴騰スルニ至レリ爰ニ於テ漸ク製煉業勃興産額稍々増加スルニ至ル今最近四ケ年ニ於ケル産額ヲ示セハ左ノ如シ

種別	年次	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	對大正二年 大正六年 増減
數量	噸	三三、五三	四九、七〇	七六、七〇	九九、七五	一、二四、五三	増 九〇、〇〇
	價額	三九、六三	二八、三三	七二、九四	一、二二、三二	一、三六、〇七	全 増 三〇、四四

(十一) 製藥 主產地沼隈郡松永町

時局勃發以來歐洲ヨリ化學及醫藥品ノ輸入杜絶シタル結果價格頓ニ暴騰シ食鹽及食鹽製造殘滓ノ原料トスル製藥業勃興シ殊ニ大正四年度ヨリハ從來製造セル炭酸苦土、葎性苦土、硫酸苦土、炭酸曹達ノ外臭素、臭化加里及鹽化加里等ノ製造増加ヲ見ルニ至レリ今最近五ケ年間ニ於ケル生産額ヲ示

セハ左ノ如シ

種別	年次	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	對大正二年 大正六年 増減
數量	噸	三、八七	一九、七六	三三、九六	六、七三	五、〇三	増 四、一五
	價額	三、八七	一九、七六	三三、九六	六、七三	五、〇三	増 四、一五

(十二) 染料 產地蘆品郡府中町、廣島市

歐洲戰亂勃發以來獨逸國ヨリアニリン染料輸入杜絶ノ結果著シク價格ノ暴騰ヲ來シタル爲メ織物製造上多大ノ打撃ヲ受ケタリシモ大正四年十一月頃ヨリ染料製造事業勃興スルニ至リ大正五年ニ於テハ著シテ其製造額ヲ増加シ今ヤ内地ノ需要ヲ充スノミナラス進テ露國ニ輸出ヲ企劃セントスルニ至レリ最近三ケ年ニ於ケル生産額ヲ示セハ左ノ如シ

種別	年次	大正四年	大正五年	大正六年	大正四年 大正六年 増減
數量	噸	100,000	空	二、六二	増 二、六二
	價額	100,000	一、八五、六六	二、九二、四三	全 増 二、〇六、七七

二、蠶 絲 業

本縣ニ於ケル蠶絲業ハ頗ル幼稚ニシテ收繭額ノ如キ微々タルモノナリシカ歐洲戰亂以後一時惡影響ヲ受ケタルニ近時著シキ發展ヲ爲シ大正六年ニ於ケル蠶業ヲ見ルニ桑園反別三千六百二十八町歩養蠶戶數一万九千五百六十一戸收繭高五万四千四百二十五石價額四百四万八千圓ニシテ之ヲ大正五年ニ比較スルニ桑園反別七百二十八町歩養蠶戶數三千六百六十餘戸收繭高一万二千三百六十五石價額百九十三万四千圓ヲ増加セリ今日ノ狀勢ヲ以テスレハ尙益々發展大正十年ニ至ラハ十萬石ノ收繭ヲ豫期セリ然

レト、モ突飛ノ發展ハ一朝價額暴落等ニ遭遇センカ亦タ意氣頓ニ挫折スルノ憂アルヲ以テ注意警戒只管健實ナル發達ヲ期シ居レリ今既往五ヶ年ノ産額ヲ舉クレハ左ノ如シ

種別	年次	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	對大正二年比較
桑園反別	數	三、〇八五丁	二、三〇五丁	三、〇六〇丁	三、九〇九丁	三、六八丁	增 一、五二三丁
養蠶戶數	數	一九、五五戸	一九、九五戸	三、九六戸	二七、九〇戸	一九、五五戸	全 三五戸
繭 價	額	一三、七、五九石	一五、五三石	二八、九〇石	四三、三六石	五四、四五石	全 三〇、五五石
繭 産 額	額	一、〇七、五八圓	一、〇四、八六圓	九、九、四七圓	三、二四、〇三圓	四、〇八、一五圓	全 二、九七、三九圓
生糸 價	額	一〇、七七圓	六、八五圓	一、〇七圓	一一、七〇圓	六、〇、〇八圓	全 四、九、五三圓
生糸 産 額	額	五、五、五八圓	三、七、三〇圓	九、五、一八圓	九、〇、〇三圓	三、七、四、五二圓	全 二、一七、〇九圓

備考

- 一、養蠶戶數ハ春夏秋飼育總戸數ヲ記載ス
- 一、生糸産額ハ生糸及玉糸ヲ記載シ屑物ヲ加算セス

三、普通農業

(一) 除虫菊 主產地豊田御沼隈深安ノ沿海町村

本縣下ニ於ケル除虫菊ハ主トシテ沿海島嶼地方ニ生産シ明治四十二三年頃迄ハ其産額僅少ナリシモ歐洲戰亂勃發以來價格騰貴シ頓ニ栽培反別ヲ激増シ大正六年ニ於ケル産額七十六萬圓ノ多キニ達シ神戸横濱等ノ貿易商人ヲ經由シテ米國其他ニ輸出セラレ、ニ至リ著シク發展ノ傾向ヲ示シ今ヤ全國有數ノ主產地トシテ知ラル、ニ至レリ嘗テ試ミニ今最近五ヶ年ニ於ケル産額ヲ各年別ニ掲クレハ左表ノ如クニシテ大正二年ニ比シ大正六年ノ産額ハ數量價額ニ於テ實ニ八倍弱ヲ増加セリ

種別	年次	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	對大正二年比較
作付反別	數	一三、一九反	一九、九反	三六、〇反	一、〇〇九反	一、三〇六反	增 一、一八七反
價 額	額	三、八、六六圓	四、一、五三圓	八、九、六三圓	二八、九〇圓	二九、七、五五圓	全 二六、一、五九圓
價 額	額	六、九、四四圓	九、五、六六圓	二五、〇、三三圓	三六、七、〇〇圓	七六、八、七九圓	全 六六、九、四五圓

(二) 肥料

歐洲戰亂以來肥料ノ供給順調ヲ缺キ且ツ市價ノ騰貴シタルト米價下落ノ爲農家ノ肥料購買力減退シタル爲メ販賣肥料ノ消費額減少シタルモ自給肥料ノ普及獎勵ニ努メタル結果著シク其ノ消費額ヲ増加シタリ今既往五ヶ年ノ消費額ヲ示セハ左ノ如シ

種別	年次	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	對大正二年比較
販賣肥料	價額	二〇、三三、三三圓	一九、九七、一八圓	二〇、七九、五五圓	一九、六〇、二七圓	一九、八七、〇四圓	減 三、九、六五圓
自給肥料	價額	三、九、五五圓	三、四二、四四圓	三、四二、四四圓	三、七、三、〇三圓	三、九七、九八圓	增 一、〇、四三圓
總計	價額	二四、二、八八圓	二三、三九、六二圓	二四、二、〇〇圓	二三、三、二七圓	二三、八四、九八圓	增 六、八、三六圓

備考

- 一、販賣肥料中大正二年ニ對シ大正五年ノ減少シタルモノ、主ナルモノハ魚肥類、骨粉、大豆粕、釀造粕類硫酸安母尼亞、智利硝石、石灰窒素調合肥料、石灰製鹽廢物等トス
- 一、自給肥料ノ數量増加シタルニ拘ハラズ價額減少セルハ單價ノ下落シタルニ依ル

四、林業

(一) 松 脂

テレピン油及チヤン製造ノ原料タル松脂ハ從來雙三比婆ノ兩郡ニ於テ採取セシカ時局ノ影響ヲ受ケ著シク之ヲ採取ヲ増加スルニ至レリ即チ大正二年ノ産額僅ニ四百五十一圓ニ過キサリシモ大正六年ニ於テハ一万四千餘圓ノ多キニ達セリ本縣ニ於テハ夙ニ斯業ノ有望ナルコトヲ認メ之ヲ採取上指導獎勵ヲ爲シツ、アリ

(二)阿部槓樹皮

本縣ノ特産物タル阿部槓樹皮ハ從來三十万貫内外ノ産額ニ過サリシカ時局勃發以來外國産コルク輸入杜絶シタルト工業用途ノ擴張シタル爲著シク其需要額ヲ増加シタルノミナラス露國及支那ニ於ケル冷蔵庫製造事業開設ノ影響ヲ被リ薄皮ニ至ル迄之ヲ利用シ得ルニ至リタル結果一昨年夏期以來至ル處盛ニ剥皮ヲ行ヒ廣島市ニ集中シタル量無慮百五六十万貫(石州及雲州ヨリ五六十万貫移入)ニ達シ内本縣ニ於テ剥皮セルモノ殆ト百万貫ニ垂タトスル狀況ニシテ濫採ノ弊ヲ認メツ、アリ斯ル狀勢ナルヲ以テ其濫採ヲ防止シ且ツ之ヲ保護育成ニ努メシメ最モ有望ナルニ番皮ノ生産ヲ計リツ、アリ

一四 生産増加計劃一覽

大正六年度ニ於テ施行セル本縣生産調査ノ結果ニ基キ企劃セル生産増加ノ綱要左ノ如シ

普通農事部

- 品種改良 (早生)八反、穀良都、光明錦、出雲 (中生)福山、都 (晚生)雄町、神力、小天狗
- 肥料改良 自給肥料ハ堆肥綠肥等ノ増殖 販賣肥料ハ適當ニ磷酸加里肥料ノ配合 苗代改良(薄播、施肥改良、淺水掛) 挿秧法改良(深淺、粗密注意、小株密植、長方形植) 除草法改良(期節注意、機械取普及) 灌漑法改良(適量ニ注意)
- 栽培法改良 收穫期節改良(中刈ノ適期)
- 米 改良犁ノ普及 耕牛体力増大 深 耕 病害虫驅除 豫防 病害、稻熱病等 害虫、螟虫、浮塵子、蟲蝨、泥負虫、椿象等 (基本調査)

設計調查
耕地整理 工事監督 整理施行豫定面積九千五百十四町四反步
確定測量
事務指導

簡易排水(簡易暗渠排水(豫定千八百二十七町一反步))

米穀檢查
玄米檢查
白米檢查

品種改良(獎勵品種)
(大麥)倍取
(裸麥)コビン紅梅、濕氣不知
(小麥)タカセンモ

肥料改良
堆肥ノ改良及施用量増加
合理的配合並施用期改良

栽培法改良
踏壓ノ普及
培土作業普及

病虫害驅除
冷水溫湯侵法(黑穗病、斑葉病)
豫防 肥培ノ改良ニ依ル豫防(雲形病、ウトンコ病、錆病)

耕地整理(米ニ同シ)
依裝改良、容量一定
移出檢查

麥類檢查
麥類改良 特性ニ依リ細、中、大蘭ノ原種分離

各特性ノ增長
苗代改良(苗ノ選別、仕立法、原苗更新、施肥方法)

蘭

栽培法改良
本田(株間ト本數トノ適度)
病虫害ノ驅除

土質ト肥料關係注意
有機質肥料施用

肥料改良
三要素ノ配合
經濟的施肥

施肥ノ適期

反別増加(二百八十八町七反步)

品種改良(開花早ク收量多ク病害ニ抵抗力強キ優良品種)
苗床改良(薄蒔、施肥改良、管理、注意)

栽培法改良
植付改良(深淺、疎密及時期適當)
移植當時深耕

除虫菊

堆肥施用増加

肥料改良
合理的配合
乾燥充分

乾燥調製法改良
調製法改良
品質一定

段別増加(千九百八十一町四段步)

漬菜

品種改良 (優良品種普及)
 栽培法改良 (適期ニ薄播
 適期ニ數回間引)
 肥料改良 (堆肥ノ施用増加
 合理的配合)
 病虫害驅除豫防

甘藷

段別増加 (三十七町步)
 品種改良 (獎勵品種 (源氏、唐人、天竺、亞米利加、竹藷、屋久島)
 栽培法改良 (苗床改良 (赤澤式温床)
 插苗期改良 (五月下旬頃)
 適期ニ除草及蔓返)
 肥料改良 (堆肥ノ施用増加
 合理的配合)
 輪作 (黒皮病、心腐病、紫文羽病、イモムシ、夜盗虫等ノ豫防ヲ行フ爲大豆、
 小豆、豇豆等ト輪作)
 反別増加 (二百三十五町三反步)
 獎勵品種、温州蜜柑、ネーブル、オレンヂ
 品種改良 (優良苗木撰澤
 夏橙、回春橙、雜柑等ハ高接ニ依リ更新
 有機質肥料施用)

柑橘

栽培法及合理的肥料配合
 肥料改良 (施肥期及施肥量改良
 適當ノ剪定)
 病虫害驅除 (瘡痂病、煤病、虎斑病、介殼虫
 除豫防 (赤壁蝨ノ驅除)
 採收及貯藏 (採收缺及採容器改良
 完全ナル貯藏庫へ保藏)
 段別増加 (百町步)

畜産部

種類 (役肉用九割 (内國種神石牛型ノモノ)
 乳用一割 (ホルスタイン種、エーアシャー種)
 畜牛數増加 (耕地一町步當牛馬平均一頭ノ割 (五、八二六頭増)
 牝牛増加 (牝八牡二ノ比例ニテ牝牛増加)
 蕃殖率増加 (牝牛ノ六割ヲ蕃殖用トシ七割ノ蕃殖率ト爲ス
 種牡牛増加 (六百頭ヲ増加)
 産犢販賣法ノ改善 (驪市普及)
 牛乳利用 (乳油、乾酪、煉乳等ノ製造)
 飼養管理衛生ノ改善 (技術員ノ指導)
 牛厩舎ノ改造

牧草栽培 紫雲英、苜蓿、間作大豆栽培
クローバー、アルハルハ、禾本科植物獎勵

飼料貯藏法改良 埋藏窖ノ築造
埋草ノ製造普及

野草改良 草生面積増加
萩、白クローバー、オーチャードクラス移殖

放牧場設置(生産地ニ設置)
肥養及去勢獎勵 牡牛ノ去勢
賣却前ノ肥養

種類(小格輓馬) 本縣産雜種馬ニ「アングロノルマン」種又ハ「ハツクニー」種若
クハ「サラブレット」種ヲ配合

蕃殖率増加

種牡馬種付増加 國有種牡馬種付
縣下付種牡馬種付

馬 飼養管理衛ノ改善(体格及能力増進)

厩舎ノ改良

牧草ノ栽培

野草ノ改良

飼料貯藏法改良

放牧場ノ設置

家禽 種 類 現存エーコク種、名古屋コーチン種、又ハ雜種ニ、レグホーン種、ミノルカ
種ノ如キ産卵種ノ混血
品質改良(種禽種卵ノ拂下、良品種ノ蕃殖普及)
飼養戸數増加(農家一戸當一羽五分平均)
卵肉販賣(販賣組合設置獎勵)
飼料ノ改良(自給飼料ノ供給)
衛生ノ普及(技術員指導)
去勢ノ施行(肉質改良、肥滿促進)

蠶 絲 業 部

桑園 段別増加 畑地並ニ山林開墾地充當(七、一二五町四反歩増)
一戸當桑園一反七畝
品種改良 (早生)市平、甘樂草、紫早生
(中生)改良魯桑、三德魯桑等
老廢園ノ改植
合理的栽植
桑葉濫採警戒
清潔法ノ勵行
自給肥料多量施用
病虫害驅除豫防

養蠶

- 戶數增加 { 小規模經營獎勵 }
春秋蠶增加(六一、九五二戶)
對農戶數割合三割四厘
- 掃立量增加 { 一四四、七九九枚ニ増加 }
一戶當掃立量ハ春蠶ヨリモ秋蠶ヲ多クス
- 品種改良 { 春蠶 } 内外交配種、歐支交配種
{ 秋蠶 } 在來種中優良種、日支交配種
實物教授
- 技術及經營法改良 { 自給自産ノ經營 }
普通農事トノ調和

蠶種

- 品種改良普及 { 春蠶 } 内外交配種就中一代交配種
{ 秋蠶 } 在來種日支及一代交配種
- 生産能率増加 { 就業日數増加 }

- 原料繭區別 { 優良繭ハ機械製糸 }
二等繭以下座繰製糸

製絲

- 企業組織 { 基礎鞏固ナル個人組織 }
穩健ナル會社又ハ組合組織
- 器械製糸 { 規模大ナル工場制工業 }
- 座繰製糸 { 農家副業程度 }

玉絲製絲 { 大規模ノ蒸氣繰玉糸工場 }
家内工業又ハ農家副業

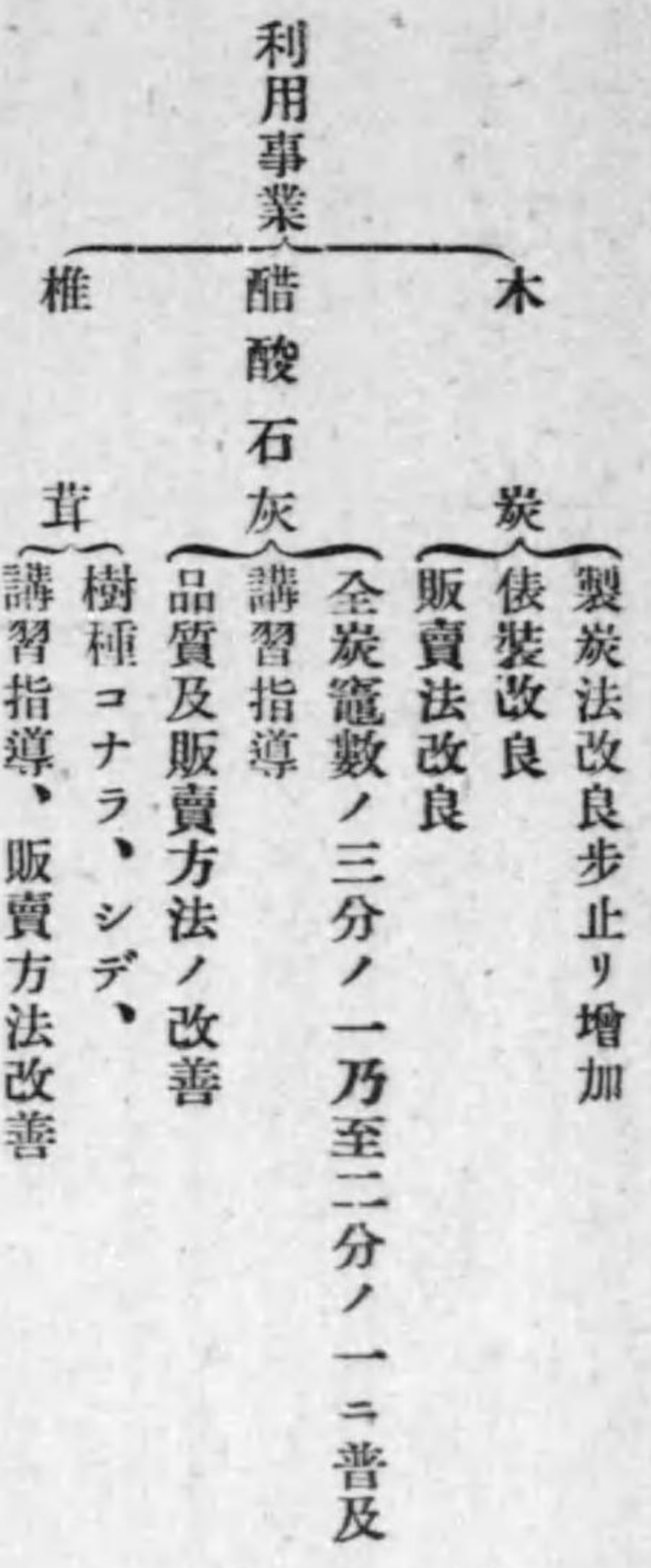
林業部

治水事業

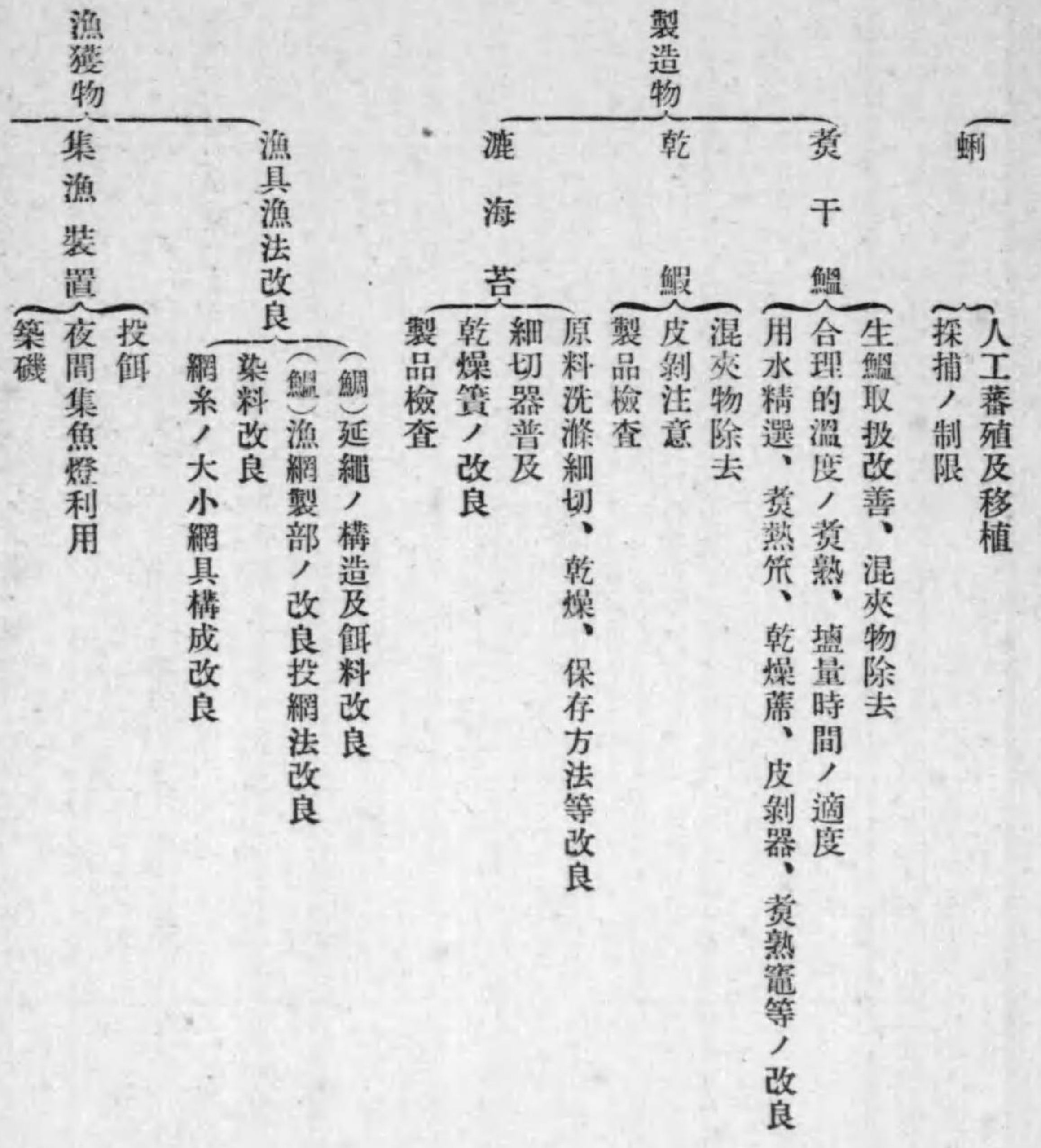
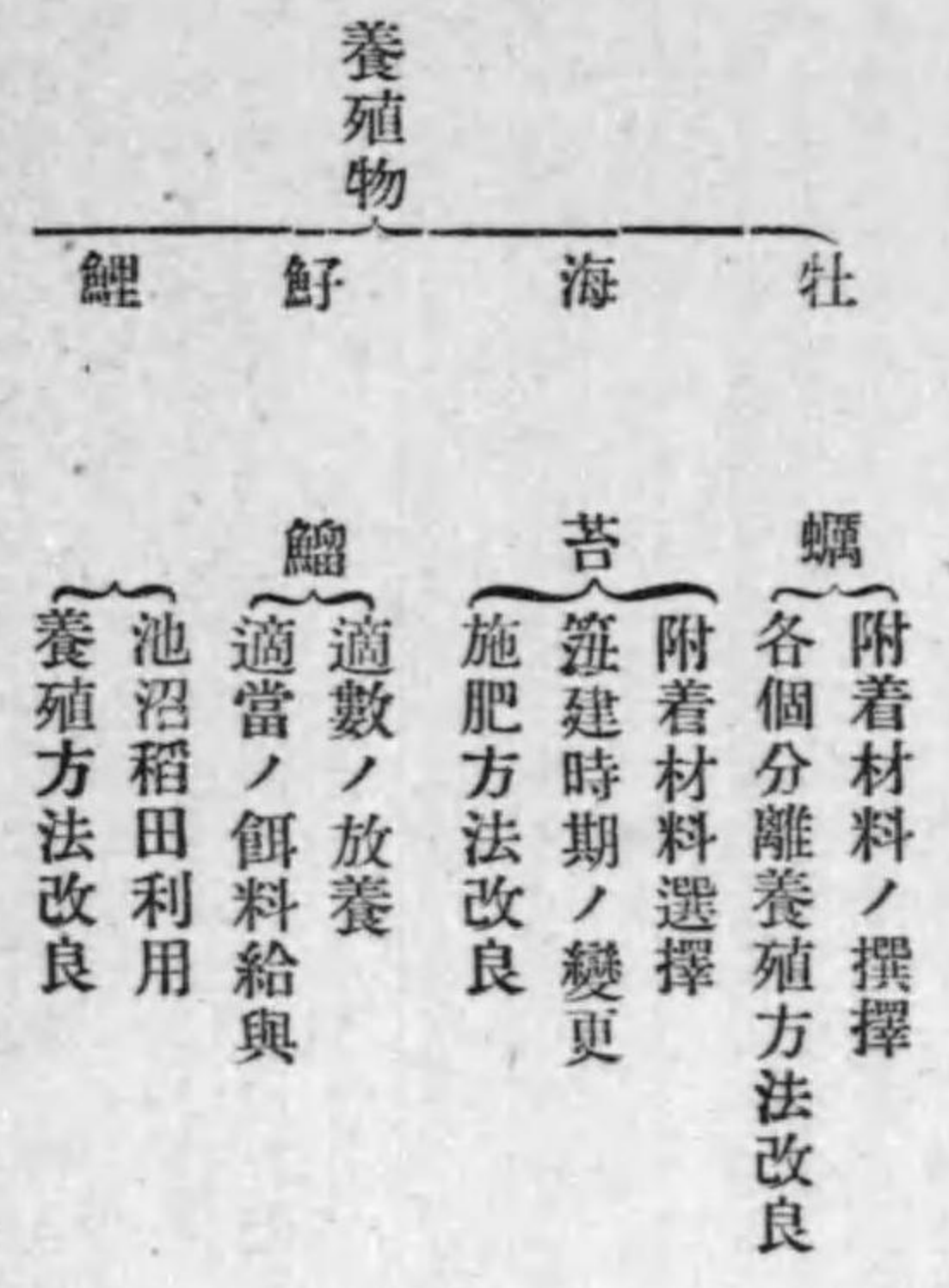
- 公有林野ノ整理 { 部落有林野統一 }
入會整理
林野管理區分
施業計劃確定
- 裸禿荒廢地復舊 { 實地講習指導 }
- 未立木地ノ造林 { 天然造林 }
人工造林
- 荒廢防止 { 取締勵行 }

造林事業

- 未立木地造林 { 伐採樹齡 }
{ 用材 } 松四十年、杉、栗五十年、扁柏七十年其他四十年
{ 薪炭 } 松二十年、櫟及雜木十五年
- 竹林ノ手入改良 { 施肥、除草、灌木荊棘臺除去 }
病傷竹除伐
- 竹林ノ増殖 雜木林中二千町步ヲ竹林ニ變更



水産部



蕃殖保護 漁具、漁法、漁期制限
採捕魚介ノ形態制限
人工孵化

漁船改良 打瀬網船
延繩船

遠洋漁業 出漁者増加 朝鮮海及支那海
朝鮮移住經營 出漁船數六百五十三艘
出漁方面擴張

工業部

品質改良 意匠考案、圖案研究會開催
染料ノ撰定共同染工場ノ設置
原料使用法、地風ノ研究、織機ノ改善、生產品ノ統一

織物

製織機改良 廣幅力織機ノ普及
備後 小倉織「サロン」地等輸出向織物
主產地 吳市 職工用服地小倉織ノ織製
尾道市 帆布織ノ織製
附近 廣島市「タオル」小倉織、白木綿織製
生産地域及品種増加

染物

原料供給 能美島白木綿製造助成
木綿工場増設
機械的操業増加
製品改良 製品統一
意匠圖案研究
染色堅牢

染料

製造法改良 機械的作業ニ變更
製造法改良
生産組織改良 大工場トシ生產品節減
經營基礎ノ強固
原料供給増加 普通農事部ト聯絡
生産地域擴張

疊表

製品改良 耳組織ノ改良
製品統一
製織機改良
販賣組織改産 販賣組合組織
共同經營

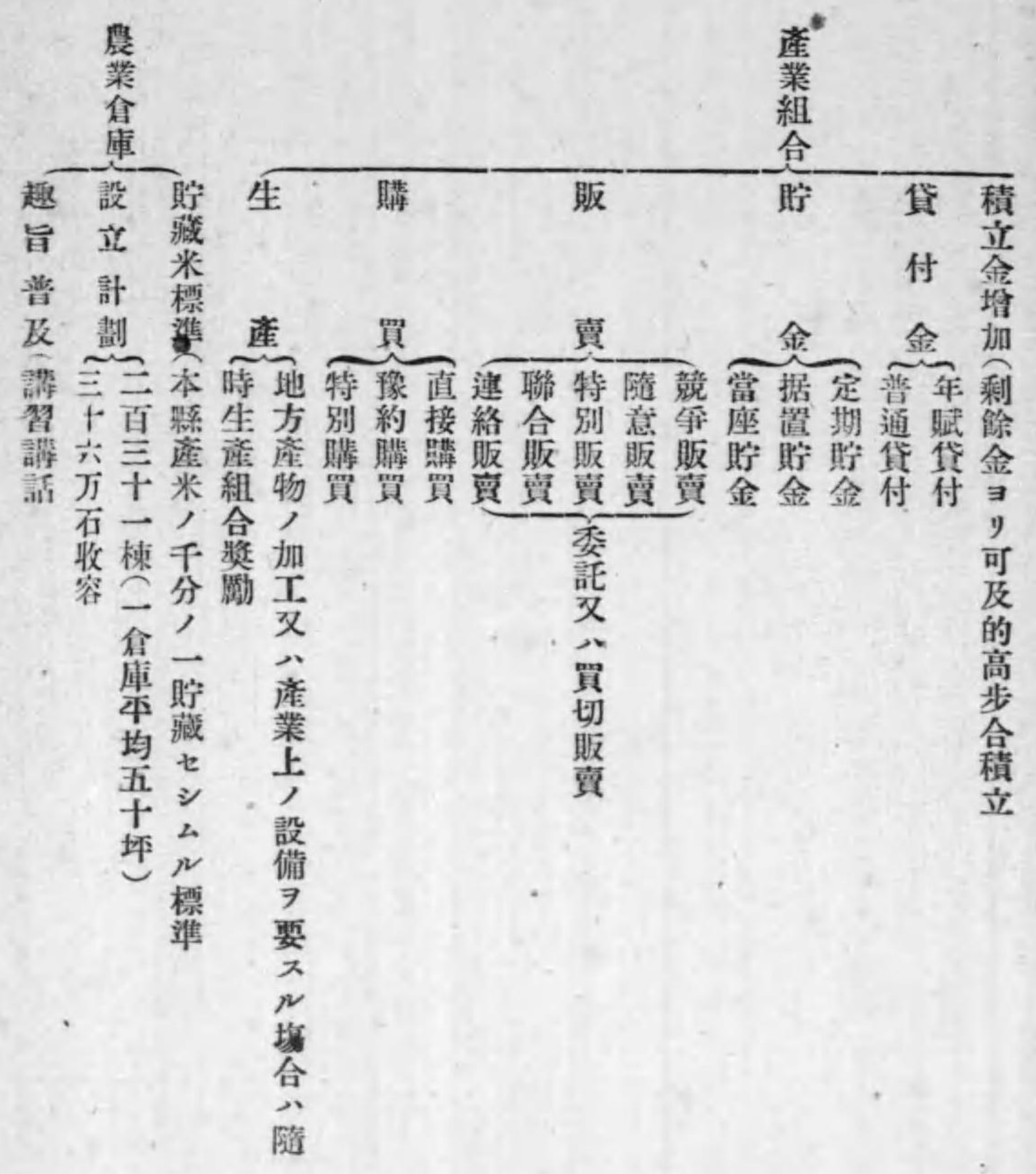
生産地域ノ擴張

漁網地 編網機増設 新式蛙又足踏編網機ノ應用

製品改良 製品統一
 製品検査
 販賣組織改良 購買販賣組合設置
 共同購入
 原料供給増加 競買矯正
 罐詰
 品質改良 加熱調理方法改良
 牛肉ニハ 味噌ヲ混セサルコト
 物品検査(強制検査)
 機械器具ノ改良

雜部

組合數百四十一組合員四万二千九十一人増
 優良組合視察
 講習會講話會開催
 印刷物配付
 增收利益ノ一部充當
 出資目的貯金實行
 出資目的特別勞働償金充當
 配當金制限
 組合員數増加
 組合ノ増設
 組合員増加
 講習會講話會開催
 印刷物配付
 增收利益ノ一部充當
 出資目的貯金實行
 出資目的特別勞働償金充當
 配當金制限
 組合員數増加



一五 勸業機關

名稱	所在地
內務部農務課	廣島縣廳
內務部商工課	同上
穀物検査所	同上
蠶業取締所	同上
同府中支所	蘆品郡府中町
同庄原支所	比婆郡庄原町
同福山支所	福山市
罐詰検査所	廣島縣廳
測候所	廣島市千田町
農事試験場(本場)	賀茂郡西條町
同(分場)	佐伯郡己斐町
同 南部原種圃	蘆品郡常金丸村
同 北部原種圃	高田郡甲立村
同 柑橋委託苗圃	豊田郡大長村
原蠶種製造所	蘆品郡廣谷村
農事講習所	同上
種畜場	神石郡油木町

工業試験場染織部 (廣島支部)	廣島市東白島町
同 化學部	同上
同 醸造部	同上
同 機械部	廣島市國泰寺町縣立工業學校内
同 圖案部	廣島市猿樂町縣立物産陳列館内
同 染織部	福山市西町
物産陳列館	廣島市猿樂町

附 錄

大正七年度勸業費一覽

種 別	豫 算 額	種 別	豫 算 額
普通農事	一四五、九八	農事講習所費	五、七三七
農事試驗場費	二八、二七九	桑苗圃費補助	六、一六〇
同 建築費	五、三四六	養蠶組合費補助	五、七五〇
穀物檢查所費	六〇、五二二	畜 產	一八、六三五
病虫害豫防費	三、四六六	種畜場費	一三、八五三
害虫驅除豫防獎勵費	五〇〇	畜產改良費	二、三三七
耕地整理費	二四、一〇五	畜牛結核病豫防費	一、〇〇〇
農業倉庫建設補助費	五、〇〇〇	牝馬講入費補助	七九五
縣農會費補助	五、五〇〇	種付牝馬補助	三〇〇
耕地整理補助費	一三、〇〇〇	乳油製造所補助	一六、九〇九
蠶 絲 業	六六、一七七	水 產	八、七三四
蠶業取締所費	一六、八七五	水產改良費	八、一七五
原蠶種製造所費	一三、三五	漁業獎勵費	四八、四七五
同 建築費	一〇、二七五	林 業	四〇九
蠶糸業改良費	八、〇八〇	地方森林會費	

△一九

△一八

林業改良費
 模範林費
 林野整理費
 公有林植樹獎勵費
 部落有林野統一獎勵費
 荒廢地復舊費補助
 竹林改良增殖費補助
 樹苗養成費補助
 森林組合地區內未立木地造林獎勵費
 商工業
 工業試驗場費
 同倉庫物置場建築費
 罐詰檢查所費
 物產陳列館費
 同業組合費補助
 商工業獎勵費
 工業試驗場建築費
 本年度支出額
 染職事業費補助
 測候所
 地方測候所費

八、六五九
 五、〇一九
 五、七三三
 三、九五五
 五〇〇
 一九、八七一
 三、六五〇
 二五〇
 四四〇
 八、三六四
 三、四八三
 四、六六〇
 三、〇七三
 一六、九六八
 七、〇〇〇
 一、二四一
 八、九五〇
 三、九九〇
 六、三四〇
 六、二四〇

共進會及品評會
 畜產馬匹共進會費
 品評會獎勵費
 其他
 產業組合獎勵費
 同補助費
 實業獎勵費
 勸業報告費
 勸業諸費
 各種產業團體費補助
 合計

二、九三七
 一、四七七
 一、四五〇
 三九、三七六
 二、七二六
 二、〇〇〇
 三、五〇〇
 三、八四
 二、七七六
 八、〇〇〇
 四二六、〇九一

△三〇

大正七年十月八日印刷
 大正七年十月十一日發行

廣島縣內務部

印刷人 廣島市播磨屋町二十五番地
 山 肩 長 太 郎

印刷所 廣島市播磨屋町二十五番地
 山 肩 活 版 印 刷 所
 電話九五七番

終

